

▷連載10◁

# カリスマ医師の神ワザ

松井 和夫 副院長

聖隷横浜病院耳鼻咽喉科



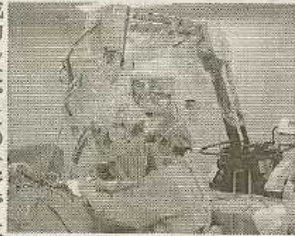
中耳炎は、鼓膜の内側の中耳と呼ばれる部分に炎症が起こるもの。風邪をきっかけに発症することが多く、軽い耳の炎症と考える人が少なくないが、中には命に関わる怖いものがある。それが真珠腫性中耳炎だ。「正常な鼓膜は鼓のようにピンと張っています

## 真珠腫性中耳炎

が、その一部が耳の奥へこむことがあります。袋状になったへこんだ部分に耳垢などがたまって、真珠のような白い塊、真珠腫ができ炎症を起こしたのが真珠腫性中耳炎です」  
真珠腫が大きくなると、耳垂れや痛みなどの症状が出る。その炎症によって聴力に関係する耳小骨が破壊されると、難聴を伴う人も少なくない。  
「炎症による骨破壊がさらに奥まで及ぶと、めまいや顔面神経麻痺を起して顔が曲がります。頭蓋底の骨が破壊され細菌感染すると、髄膜炎など

## 軟骨使う鼓室形成術で再発繰り返す難治患者救う

も生じ、命に関わる。真珠腫性中耳炎は、進行性の怖い病気です」  
厄介な真珠腫性中耳炎を治すには、真珠腫を取り除いて、その部分(鼓室)を作り直すことが必要だが、従来の鼓室形成術は再発が多いのが難点だった。松井副院長は工夫を重ねて独自の鼓室形成術の術式を構築。再発は「右に出る者はいない」と抑えることにしている。



難聴も改善する

「最大の工夫は、耳介の後い。そこで材料を骨から取り出す。耳介の軟骨を軟骨に切り替えたら、また切れた人も少なくない。採取し、真珠腫を取り除いた部分にそっくり留置して作り直すこと。側頭骨の骨片などを充填して再建する方法もあります。それが、それだと留置した場所がへこんで再発しやすい

### 手術実績は1000件

「最大級の手術は、耳介の後い。そこで材料を骨から取り出す。耳介の軟骨を軟骨に切り替えたら、また切れた人も少なくない。採取し、真珠腫を取り除いた部分にそっくり留置して作り直すこと。側頭骨の骨片などを充填して再建する方法もあります。それが、それだと留置した場所がへこんで再発しやすい

(水曜掲載)